

令和 2 年 6 月 2 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02105

研究課題名（和文）精神疾患の病理を通して見た西洋古典古代の人間観の特質を解明するための実証的研究

研究課題名（英文）Philosophical Approach to the View of Humanity in Classical Antiquity through an Analysis of Psychopathological Arguments in Ancient Greece and Rome

研究代表者

今井 正浩（IMAI, Masahiro）

弘前大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：80281913

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000 円

研究成果の概要（和文）：（１）「ヒポクラテス医学文書」の『神聖病について』と題する医学書に代表される、ヒポクラテス医学派の精神病理学の特徴を明確にするとともに、それが社会に与えた影響の一端を明らかにした。

（２）前４世紀の医学者ディオクレスの精神病理論が、ヒポクラテス医学派の精神病理学の伝統に依拠しつつ、アリストテレスの生物学モデルにもとづく「心臓中心主義」に立った人体モデルを前提としていることを明らかにした。

（３）前４世紀後半～前３世紀前半の医学者ブラクサゴラスの人体生理学・病理学が、『神聖病について』と題する医学書に代表される、ヒポクラテス医学派の「脳中心主義」に対する批判的応答である可能性を論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は「西洋古典古代の精神史」という広いパースペクティブに立って、その時代の人間観の形成と展開に医学者たちがなした思想的貢献について、正しい評価を与えるための領域横断的研究であるという点を特色としている。

精神疾患をめぐる古代社会の伝統的な考え方が、医学の誕生と医学的病理診断の確立によって大きな変化をこうむり、伝統的人間観の転換につながっていくプロセスの一端を解明し得たことは、大きな成果の一つである。従来の研究では十分に解明され得なかった西洋古典古代の人間観に特有の複雑さや多面性を理解するための新しい視座を導入し、その新たな側面を明らかにしたことに、本研究の学術的・社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）： Achievements of my research entitled Philosophical Approach to the View of Humanity in Classical Antiquity through an Analysis of Psychopathological Arguments in Ancient Greece and Rome will be summarized below.

I elucidated what characterizes Hippocratic psychopathology, as represented by psychopathological arguments by the author of the Hippocratic treatise On the Sacred Disease, and made it clear what impact it had on the traditional Greek society.

I made it clear that psychopathological arguments by Diolces of Carystus relies in important aspects on the tradition of Hippocratic psychopathology, while it also presupposes Aristotelian cardiocentric model of animals. And I made it clear that Praxagoras of Cos may have established his own cardiocentric physiology as a critical response to the tradition of encephalocentrism of Hippocratic medical school in Cos.

研究分野：西洋古典学／西洋古典古代の科学思想史（おもに医学思想史）

キーワード：精神疾患の病理 西洋古典古代の人間観 ヒポクラテス医学文書 ディオクレス ブラクサゴラス 初期アレクサンドリア医学

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

（１）研究者は、経験科学としての医学を誕生させた古典期ギリシアの精神風土を、思想文化史的な観点から明らかにするという研究に、長年にわたって取り組んできた。ここ数年、ギリシアの医学者たちの人間理解の方式を同時代の哲学者たちの人間観と比較しつつ、その基本的特質を明らかにしていくことによって、ヨーロッパの歴史文化の源流の一つにあたる西洋古典古代の精神風土が形成され、それが多面的に展開していく過程において、医学者たちがなした独自の思想的貢献の足跡をたどることに、おもに力を入れてきた。

（２）このような学術的関心に沿った研究者自身のこれまでの研究において、精神疾患の病理というものが、西洋古典古代の人間観の特質を解明するという目的に対して、新たな角度から光を与えうるテーマとして自覚され始めてきた。精神疾患の患者たちは、その言動等が非常にエキセントリックであることから、古くから人々の関心を集めてきた。現に、ギリシア思想の最初期に位置するホメロスやヘシオドスの叙事詩から、ギリシア悲劇の諸作品にいたるまで、現存する多くの文学作品等の中には、精神疾患（てんかん、うつ病、統合失調症、脅迫神経症等）とその主要な症状にあたるもの（抑鬱状態、幻聴幻覚、狂乱等）をきたした人々の「症例」を数多く見つけることができる。

2．研究の目的

（１）本研究は、「精神疾患の病理を通して見た西洋古典古代の人間観の特質を解明するための実証的研究」という研究課題名に端的に示されている通り、さまざまな精神疾患の患者の病理を通して、西洋古典古代の人間観がどのような特質を持っているかという点を、古典ギリシア語・ラテン語の原典等を資料的典拠とすることによって、その内容の分析をもとに、実証的に解明していくことを目的としたものである。

（２）疾病の診断治療と健康の維持を目的とした専門技術（テクネー）としての医学は、紀元前5世紀に、「医学の父」ヒポクラテス（c.460-c.375 BC）によって経験科学としての基礎を確立していった。本研究では、経験科学としての医学の成立という出来事が、精神疾患をめぐるギリシア人たちの共通理解に大きな転換をもたらしたという事実に着目した。つまり、精神疾患に関する医学的な病理診断の確立が、この種の疾患の病理をめぐる当時のギリシア人たちの共通理解にどのような転換をもたらしたかという点に焦点をあてることによって、医学が誕生したとされる紀元前5世紀から、ヘレニズム期をへて、ローマ期へといたる西洋古典古代の人間観の展開において、医学者たちがはたした思想的貢献について、その一端を明らかにしていくことにあった。

3．研究の方法

（１）2016年度（平成28年度）には、経験科学としての医学が成立する以前の古代ギリシア社会における精神疾患の「病理」を文献資料等にもとづいて概観するとともに、この種の疾患に関する病理診断の事例を当時の医学文献中にもとめ、その基本的性格を明らかにするという方法によって考察を進めていった。経験科学としての医学が成立する以前の古代ギリシア社会においては、特定の神々や「神霊」（ダイモン）のような超自然的存在を人々の精神生活に介在させることによって、精神疾患の患者たちの「病理」を説明するという考え方が、この種の疾患をめぐるギリシア人たちの共通理解の根底にある。このような共通理解とその背景にあるものについて、思想文化史的観点に立った考察を進めていった。以上の考察につづいて、ヒポクラテスに主導されたコス医学派の医学者たちによる医学書を中心として、現存する「ヒポクラテス医学文書」の中に精神疾患の患者たちに関する症例報告をもとめ、医学者たちの病理診断の分析を通して、その基本的性格を明らかにしていったというわけである。

（２）2017年度（平成29年度）には、精神疾患に関する医学的な病理診断の確立が、この種の疾患の病理をめぐる人々の共通理解にどのような転換をもたらしたかという点を中心として考察を進めていった。

（３）2018年度（平成30年度）には、精神疾患に関する医学的な病理診断が確立し、それが当時の社会に浸透していったことによって、この種の疾患をめぐる病理がどのように転換していったのかという点に焦点をあてるという方法をとることによって、考察を進めていく計画であった。しかし、この作業の過程で、ヒポクラテス以後、紀元前4世紀後半からヘレニズム初期にかけて活躍した代表的な二人の医学者、ディオクレスとブラクサゴラスの人体生理学と病理学について、〔１〕精神疾患の病理に立って、ヒポクラテス医学派の人体生理学と病理学との関係を明らかにするとともに、〔２〕特定の精神疾患とそれに固有の症状の病理学的説明をめぐる両者の関係をあらためて明確にする必要が生じた。

（４）以上の追加的な考察を進めていった結果、本研究は、計画自体を当初の予定から一年間延長するという対応をとることによって、最終的に、2019年度（令和元年度）末をもって決着したというわけである。

4. 研究成果

本研究の研究成果については、おもに、以下の(1)～(3)にまとめることができる。

(1)『神聖病について』という医学書を通してみたヒポクラテス医学派の精神病理学の特徴とそれが当時のギリシア社会に与えた影響の一端を明らかにした。

現存する「ヒポクラテス医学文書」には、ヒポクラテスに主導されたコス医学派の医学者たちによる医学書が多数含まれている。その中でも、『神聖病について』と題する医学書は、当時、神々や「神霊」のような超自然的存在が人々の精神生活に介在することによって生じるとされていた「神聖病」(癲癇)の病理に対して、この疾患が「粘液」(プレグマ)という体液に起因する脳の機能不全によるものであるとする、科学的な病理論を展開していることで有名である。この医学者の著者は、「神聖病」に固有の心身の不調をはじめとして、さまざまな種類の精神疾患(狂気や沈鬱状態等)を脳の異常な状態変化に起因するものとして説明している。

このような精神病理論を展開していく中で、その前提として、著者が提示している「神的」という概念の分析を通して、それが古代ギリシア人の伝統的な宗教観念とどのように関係しているかを明らかにした。

(2)医学者ディオクレスの精神病理論の特徴を明らかにするとともに、ディオクレスの精神病理論の形成において、『神聖病について』と題する医学書の著者の精神病理論に代表される、ヒポクラテス医学派の精神病理論が影響を与えた可能性について論じた。

ディオクレスは、ギリシア本土東岸に位置するエウボイア島の主要都市カリュストス出身で、紀元前4世紀に活躍した医学者の一人である。古代の証言によれば、ディオクレスは「年齢と名声においてヒポクラテスにつづく人物である」「ヒポクラテスの後継者で、アテナイの人々は彼のことを若きヒポクラテスと呼んだ」と伝えられている。

本考察では、精神疾患に関するディオクレスの病理論に焦点をあてつつ、この医学者の精神病理論が、『神聖病について』と題する医学書の著者が展開している精神病理論に代表される、ヒポクラテス医学派の精神病理学の伝統に依拠しているという事実を明らかにした。同時に、ディオクレスの精神病理論が、アリストテレスの生物学にもとづく人体のモデルを前提としているという事実にも着目した。

ディオクレスの精神病理論は、『神聖病論について』と題する医学書の著者が展開している精神病理論と共通点をもつように思われる。その一方で、ディオクレスの精神病理論は「脳中心主義」(encephalocentrism)に立った『神聖病について』の著者の精神病理論に対して、「心臓中心主義」(cardiocentrism)にもとづく人体モデルを前提としているという点において、アリストテレスの生物学を理論的な拠り所としていると思われる。

以上のことから、ディオクレスがヒポクラテス医学派の精神病理学の伝統に依拠しながら、アリストテレスを典拠とする「心臓中心主義」に立った人体モデルを前提とする精神病理論を展開しているという結論に至った。

(3)医学者ブラクサゴラスが精神疾患の病理学的説明の前提としている、「心臓中心主義」に立った人体生理学・病理学が、『神聖病について』と題する医学書で展開されている「脳中心主義」に立った精神病理学に対する批判的応答であるという可能性を、ディオクレスの精神病理論と比較しながら論じた。

ブラクサゴラスは、ヒポクラテスと同じコス島の出身で、紀元前4世紀後半紀元前3世紀前半に活躍した医学者の一人である。ブラクサゴラスは、西洋医学史上、最も重要な発見の一つとされる「神経の発見」に寄与したとされる初期アレクサンドリアの医学者ヘロピロス(c.330-250 BC)をはじめとして、多くの弟子たちを育成したとされている。ブラクサゴラスは、二種類の異なる物質の導管として「動脈」を「静脈」から明確に区別した最初の医学者である。この医学者の人体モデルでは、「静脈」が栄養にあたる血液を全身に運ぶ通路であるのに対して、「動脈」は「プネウマ」という物質を全身に運ぶための通路であるとされている。

ブラクサゴラスの人体モデルの特徴は、ディオクレスの場合と同じように、脳でなく心臓を人体の中枢器官として位置づけるという「心臓中心主義」の立場をとっているという点にある。この医学者の人体モデルにおいては、「プネウマ」という物質は、心臓と体の各部分を結ぶ「動脈」を経由して、感覚器官からの情報を心臓に伝えるとともに、心臓からの指令を体の各部分に伝達するための媒介としての役割を担うというわけである。

本考察では、ブラクサゴラスの「心臓中心主義」に立った人体生理学・病理学を理解する上で重要となる「プネウマ」という概念に着目した。その結果、〔1〕「プネウマ」という物質が「外界から呼吸によって体内に取り込まれる空気」を素材としているという点において、『神聖病について』と題する医学書の著者と考え方を共有しているという点を明らかにした。

その一方で、〔2〕ブラクサゴラスの「心臓中心主義」に立った人体生理学・病理学が「心臓中心主義」に立ったアリストテレスの生物学に依拠していると判断されることから、この医学者の人体モデルについては、『神聖病について』と題する医学書の著者が提示している「脳中心主義」に立った人体モデルに対する、アリストテレス主義という観点からの批判的応答であると解することができるという点を明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Masahiro IMAI	4. 巻 第6号
2. 論文標題 Diocles of Carystus and Hippocratic Medicine in the History of Psychopathological arguments of Ancient Greece	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in the Humanities and Social Sciences (弘前大学人文社会科学部『人文社会科学論叢』)	6. 最初と最後の頁 61 - 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro IMAI	4. 巻 27-1
2. 論文標題 Praxagoras of Cos against the Tradition of Hippocratic Encephalocentrism	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Historia Scientiarum: International Journal of the History of Science Society of Japan	6. 最初と最後の頁 82-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 IMAI Masahiro	4. 巻 No.1
2. 論文標題 Psychological Arguments in the Hippocratic Treatise On the Sacred Disease	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人文社会科学論叢 (Studies in the Humanities and Social Sciences)	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 今井正浩	
2. 発表標題 プラクサゴラスと古代ギリシアの医学思想における「プネウマ」理論の展開	
3. 学会等名 日本科学史学会第65回年会・総会	
4. 発表年 2018年	

1. 発表者名 今井 正浩
2. 発表標題 医学者ディオクレスの精神病理論におけるヒッポクラテス医学の影響
3. 学会等名 日本科学史学会第64回年会・総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今井 正浩
2. 発表標題 アリストテレスにおける動物の発生理論とその基本問題
3. 学会等名 日本科学史学会第63回年年会・総会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考